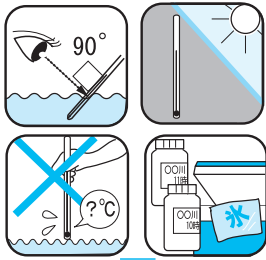


測定編

【採水現場での測定】 調査月日・調査時刻・天気を調査票に記入



採水現場の気温・水温の測定と記入

- ◆ 温度計で温度を読む場合、視線は温度計に直角。
- ◆ 気温は日陰で測定。
- ◆ 水温は温度計を試水に入れた状態で測定。
- ◆ 測定会場を利用する場合、採水後、可能な限り早めの測定を心掛けましょう。可能な場合は、試水を低温で運びましょう。また、測定前に容器を軽く振り混ぜて試水を混合しましょう。

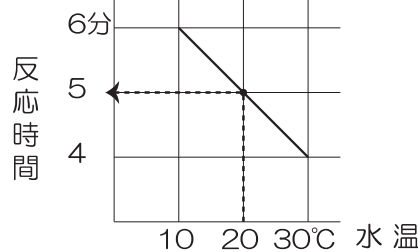
【採水現場または測定会場での測定】 ※ 測定の前には手をよく洗いましょう。また、直射日光を避けて測定しましょう。



① 試水の温度（水温）を測定し、反応時間を決定します。

- ◆ 反応時間はストップウォッチなどを使いできるだけ正確に測定。
- ◆ 試水の温度と気温（室温）が等しくなっている方がよい。

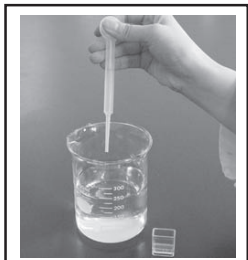
例：水温20℃なら反応時間は5分



【水温と反応時間 早見表】

水温	反応時間
10℃	⇒ 6分00秒
15℃	⇒ 5分30秒
20℃	⇒ 5分00秒
25℃	⇒ 4分30秒
30℃	⇒ 4分00秒

（※ 国立環境研究所のバックテスト取扱説明書より改編）



② パッケージCOD(D)のポリチューブ先端のライン(黄緑色)を抜き取ります。

- ◆ ライン以外の部分はできるだけ触れないようにします。



③ パックンにスポイトを用い試水を目盛りまで(約1.5mL)採ります。

- ◆ スポイトとパックンは試水ごとに3回を目安に共洗いします。



④ ポリチューブの空気を抜き、試水を全て吸い上げます。

⑤ 反応時間の測定開始。

- ◆ ポリチューブの中で試水をゆっくり振り混ぜます。
- ◆ 標準色の上のせて、色の変化を見ながら待ちます。

注意！

バックテストCOD(D)の中身はチューブの外に出さないでください！特に目に入ると危険です。使用後にラインを元通りに差し込むと液が漏れません。



⑥ 反応時間終了。すぐ比色します。

⑦ 測定値を調査票に記入します。

※ 同じ試水で3回測定します

3回の測定が終わりましたか？

はい いいえ



お疲れ様でした。これで調査は終了です。

